

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第6回宍粟市地域創生戦略委員会	
開 催 日 時	平成28年4月25日（月）14時00分～16時20分	
開 催 場 所	宍粟市役所本庁舎 4階 会議室	
議長（委員長・会長）氏 名	林 昌彦	
委 員 氏 名	（出席者） 林昌彦、三渡圭介、玉田恵美、 岡本一也、長田博、春名千代、 田口すみ子、山田寛、古根川淳也、 種谷淳	（欠席者） なし
事 務 局 氏 名	宍粟市 企画総務部：中村部長、世良次長 地域創生課：山本課長、原係長、前平主査	
傍 聴 人 数	4名	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） 1．開会 2．委員長あいさつ 3．説明・審議 戦略委員会スケジュールについて 地方創生先行型交付金を活用した事業の検証について 宍粟市28年度地域創生に係る事業について 4．その他 5．閉会	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認 （記名押印）	（委員長等） _____	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員長	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>新年度になりまして慌ただしい頃かと思いますが、本日はご出席ありがとうございます。</p> <p>新年度になりまして熊本で地震がありました。そのなかで言われたことは、想定されないことが起こったとき、どう対応するかということです。私たち市民の生命財産を守るために地域が元気であり、その地域の行政が機能していることが重要です。さらに市民生活を守るのは市民自身なんだと改めて感じたところです。ここ数年各地域が元気を失っているという問題意識の元でこの委員会をスタートしたわけです。昨年度は戦略の策定というところで皆さんにはお世話になりました。皆さんにいただいたアイデアを十分活かし切れていないところもあります。今年度は実施の年です。実施するなかでさらに追加的なアイデア、お気づきの点、新たな問題の提起や新しいやり方を提案していただきたいと思います。</p> <p>地域活性化は容易ではないことは、当然わかっていることです。従来にないやり方を試みていくことも必要になってきます。その時皆さんの知恵をぜひ拝借したいということをお願いします。われわれの任期は当初から2年となっており、今年度が2年目ということになります。任期の節目は来年の3月ではなく、4月ということです。年度の区切りとは一致しておりませんので、丁度一年後の4月までお世話になります。そのあとは新たな編成になるのかなと思いますけれど、この1年間は実施に向けスタートを切り、いかにスムーズに新しい事業をおこしていくのが課題になってくるかと思っています。その点につきまして今日今年度の一回目の委員会ということで、この1年間の予定も含めて審議していきたいと思います。</p>
事務局	<p>～資料の確認～</p> <p>3. 説明・審議</p> <p>戦略委員会スケジュールについて (事務局より資料を基に説明)</p>
委員	<p>9月の段階で今年度を想定すると、9月時点でそれまでの進捗状況は検証しないのですか。</p>

事務局	<p>9月でもそれまでに事業は進捗していますので、途中経過は会議を使って検討させていただきたいと考えております。</p>
委員長	<p>当然本日の議論を受けて注文は出てこようかと思いますが、それに関してはご回答いただくことが前提になります。</p>
委員	<p>行革もされていると思いますし、第三次行政改革懇談会というものもあるようですが、それぞれの審議会とこの委員会の関係と伺いますか、予算編成される際には行革懇談会はどのような役割を果たしますか。県では行革審議会と県のビジョン審議会と地域創生の委員会がありそれぞれの意見を伺ったりします。当委員会はこれでいいと思いますが、意見を伺う順番とか委員構成にもよるとは思いますか、それがどうなっているのですか。今決まっていらないのであれば、どこでどういう審議をして最後に市長の査定のときにこういうようにしますというような予定はありますか。</p>
事務局	<p>昨年審議いただいた中で総合計画と総合戦略を同時に策定していただいた経緯があります。概略版の総合計画をお付けしているのですが、5ページに人口ビジョンと定住促進重点戦略が入っております。総合計画は市の政策全般に幅広く渡りますが、この中でも定住促進に関する部分を一部特出しをして総合戦略として位置付けています。進捗状況の評価についてですが、総合計画では行政評価の審議会がありまして、林委員長にも入っていただいています。それと整合をとりながら進捗管理を行うことになろうかと思えます。</p>
委員長	<p>先日市の担当者の方が見えられて打ち合わせをしました。行革の委員会を県立大学の同僚が担当しておりまして、総合計画と行革の委員会の関係はどうなっているのか話をいたしました。結論が出ていない状況です。やっぱりそれぞれが自分の持ち場だけを見ているのではなく、いかに総合力を発揮するのかというところが肝心になってきますので、市でももう少し整理をしていただければと思います。</p>
事務局	<p>行革懇談会もありましてそちらの検証もさせてもらうことになっています。その辺は整合を取ってやっていきたいと考えております。</p>
委員長	<p>スケジュールに関して、平成28年度の評価については1年後の4月で良いのではないかと思います。今回を含めて3回の委員会を開催することになりますが、その予定でよろしいでしょうか。</p>

委員	(異議なし)
委員長	<p>何か特別な事情があれば変更をすることになりますし、追加で開く事情があるかもしれません。そういう場合は、委員長である私に聞いていただきたいと思います。それから4月のこの会議ですが、昨年度の事業の検証及び改善ということです。私も昨年度は戦略を策定しただけで終わっている気になっていました。実際にはそうではないので、そのあたりの事情も説明していただきながら、昨年度の事業の検証についてお話していただきます。</p>
事務局	<p>地方創生先行型交付金を活用した事業の検証について (事務局より資料を基に説明)</p>
副委員長	<p>先月末に前鳥取県知事の話聞き、日本国中が少子高齢化の状況で平成17年には人口のピークを迎え、そこから徐々に減っていくというように言われていますが、私たちはそのような極端な人口減というものを肌身に感じていないという内容でした。ずいぶん人口が減っていると実感していますか。私はそんなに実感しておりません。人口ピーク時から約10年経ち、200万人ほどは確かに減っていますが、まだ1億2,600万人はいるという感覚が拭い去れないのです。しかし、労働人口を考えてみますと、大変な勢いで減っています。また、せっかくの労働人口が地方に残らず都会に出てしまっている。この二つの大きな問題があるというように私たちは認識しています。前鳥取県知事から、それがどういうことから起きるかということを知りました。それは、それぞれの地域、兵庫県、宍粟市、市の旧町地域それぞれ事情は全部違うでしょうが、その地域の収入と支出のバランスが赤字になるから人口が減るのだと、わかっていると思いつつもまだ実感できていないのです。</p> <p>先日道谷に行きましたが、本当に過疎といえますか、人数が少ない。しかし、今から40年～50年前を考えると、あそこには産業がありました。農業林業を中心とする第一次産業があり、それを皆さんで支えていました。入ってくるお金と出ていくお金が、大きく黒字にならなくても赤字にはならなかった。だから人口のバランスが上手くいって、そんなに人口は減らなかった。しかし、今は林業も農業もその昔は養蚕もされていたようですが、入ってくるお金が少なく出ていくお金が大きく地域経済が赤字である。宍粟全体も同じ状況下であると思います。</p> <p>皆さんも考えてみてください。ここはもともと製糸産業があり、終戦後昭和30年くらいまで大変な人数の女工さんが働いておられました。その製糸産業が廃れ、それから30年～35年くらい前に川向こうにNECができ、200人くらいの社員さんがおられました。この地域で養蚕も林業も廃れていく中で日本の製造</p>

業の繁栄ということで、下請け孫請けの会社もこの地域にもありました。その時はたくさんの労働がありましたし、消費も商店街でしてありました。出ていくお金も地元の商店街で使うことで、いくらかでもお金が落ちる仕組みになっていました。

ところが、製造業が海外にシフトをしてしまい、商工会のデータで20年～30年前ちょうどバブルが弾ける前、この地域の製造業は三分の一近くなっています。入ってくるお金が少ない、しかもスーパーやコンビニが宍粟市内で集めたお金を市外に持って行ってしまいます。だから人口が減るという図式になっています。「入るを量って出づるを制す」という言葉がありますが、なぜ入るを量るのかというと、私は建築屋をしています、主に姫路、加古川から龍野など地域外で住宅を建てさせてもらっています。その時に働く職人は、この地域の人ほとんどです。現地で雇う場合もありますが、ほとんどが地元の方ばかりで、向こうで家を建てるとそのお金をこっちへ持ち帰ってくれます。入るを量るということで、どんどん増えることが望ましいです。一宮電機さんや長田産業さんも同じことで、外部からお金を稼いでこられます。また使用する木材は95%宍粟の木を使ってあります。ところが木材の自給率は、全国的には70%が外材で、30%が国産です。外材で家を建てた場合、問屋さん或いは材木屋さんを通じてアメリカへ行ったり、北欧へ行ったりしてお金が残りません。この地域の木材を使った場合、それは山に環ります。かつて100軒あまりあった製材所も今や20件を切りましたが、製材所にも帰ります。去年だけでも3件がやめられました。雇用が生まれない、お金も落ちない、さらにお金が出ていくというような状況下に入って、収支のバランスが大きく赤字になります。だから過疎になるという話でした。

私はその通りだと思いました。小さなことかもしれませんが、外貨を獲得しお金を使わない状況に持っていく。例の一つとして私の仕事の話をしました、他にもやろうと思えばいろんなことができると思います。農作物を作って加工し、六次産業化を図る。大きく考えるのではなく、一人ひとりがその気持ちをどう持つのか、このことがものすごく大事です。いまさらスーパーやコンビニに出ていけとは言えませんが、極力買い物は地元でしようというような小さなことの積み重ね、そういう運動があってもいいのではないかという思いがあります。

もちろん先ほどから観光業の話をされていますが、天候には逆らえない。天候をどうと言うよりも、自然のままの中で人為的に人を呼ぶということはできると思います。商工会でいよいよ今年からやろうとしています、酒蔵が三つもあるような地域というのはどこにもない。それを全面的に押し出してもう少し多くの人に来ていただいて、見ていただけるような街並みを作っていこうというような発想をしております。それに付随してあそこにいけばこれが食べら

	<p>れるよというようなものを、皆が本気になって考えていくことも必要なことではないかという思いがあります。できるだけ皆さんで買い物をしあうという運動も共にやっていくことも必要ではないかと考えています。1,000人ほど雇ってもらえる企業を呼ぶとってお題目を唱えても、来ていただけないわけですから、今現在われわれがここに住む者として小さなものの積み重ねを必死になってやっていくという、具体的な事例を出して啓蒙していくことが、今われわれが率先していくことではないかと思っています。ほかにも様々あると思いますが、私としてはそう思います。</p>
委員長	<p>いかがですか。このご意見に関連させて或いは別の視点からでもどうですか。</p>
委員	<p>16事業を実施しました。前年度から行っている事業の中身を見ていくと、正しくやられたところもあるような感じがしています。14、15番の出会い応縁事業、消防団婚活事業は、市内外の独身者に結婚してもらおう取組であり、関連した事業もいろいろやっておられますが、15番の消防団婚活事業については、最初の予定よりも実績の方がかなりよかったという数字が出ています。14番の出会い応縁事業はどこの主催になりますか。</p>
事務局	<p>市の社会福祉課になります。</p>
委員	<p>同じくらいの予算であるのに、成立数など少ないですが、消防団といえば民間、民間がやると実績が出ているというのが、一つ見えるのではないかと思います。消防団はよくがんばられたのだらうと思います。ここにも予算をつけていると思いますが、市で主催するより消防団がされるというのはいいです。いろんな団体があり、商工会の青年部でも、主催するのではなく応援の方が予算から見るといいのではないかと。この点少し推し進められたらいいのではないかと思います。</p> <p>それと16番の1年目、パークアンドライドもそうですし交通ネットワークの再構築など、おそらく従来できなかったらうと思われる事業をかなりされている。住みやすいまちづくり、まちを作らねばならないという意識も高まっていますし、実績も出ている。ただ全国的にそういう機運があるのですが、消さないようにしなくてはいけない。交通ネットワーク事業の部分に利用者が少ないと廃線の対象になるということが書いてありますから、そうならないようにどうしたらいいのか、しっかりと考えていただきたい。一つの提案は、バスは走っているのはよく見かけるのですが、どうやって乗るのか、どういう路線がいつ来るのかが市民の中で共通認識になっているか、不安な所があります。最初決めたときにも時刻表とか路線図とか出されていましたが、いつどこに行</p>

委員	<p>ってもわかるようにする、或いは重点的なポイントではわかるようにするとかでしょうか。例えば市役所や病院でも総合病院や城下の医療モールであったり、それから神姫バスのターミナルなど、おそらく把握されていると思うので、非常によく使っておられる所に路線図や時刻表を表示されて、もう少し全体的にどうなっているのかというのを、できるだけわかるようにされたいのではないかと思います。</p> <p>天候不順の影響でスキー客が少なかったことに関して、具体的には人工造雪機を導入すれば雪は確保できると思います。市の施設ですから大きな投資が必要な備品、例えば人工造雪機を導入するとしたら市の予算で導入する。過去の経緯でそういうことになっていたと思うのですが、具体的にこういうことも検討する課題になってくると思います。ただ人工造雪機は電気代がずいぶんかかるそうなので、逆に経営的には厳しいこともありえます。</p> <p>あと、空き家付き農地の取得の件について、去年、私がここで提案させていただいて、さっそく実現していただいたので非常に嬉しかったです。4月から導入していますが、既に移住されたという方では実は農地を取得できなかったという方もいらっしゃいます。今回空き家バンクに登録されている農地付き物件の取得が対象ですが、先日たまたま移住した方を取材に行ったら、民間の龍野の不動産業者が古民家を専門に扱いインターネットで販売されているのですが、そこで空き家を買われたら農地もついており、農地を購入したという方がいらっしゃいました。農業委員会でどうなっているか、そこまでは確認していないのですが、空き家バンクに登録されていなくて民間の不動産屋さんから購入したケースもあると思うので、それも柔軟に対応できればと思います。既に取得した方にも呼びかけて、1年間くらいは遡及的に農地取得を認めるような対応はできないでしょうか。たぶん農業委員会の許可がなく、農地は取得していないけれども、借りて耕しておられる方もいると思いますので、そういう方もせつかくですから遡及的に取得できる特例をやってほしいと思います。</p>
委員	<p>課題についてですが、1番目の空き家バンクの登録が少ないというのは現実にあります。空き家はたくさんあって、現地調査をして市の市民協働課と一緒にしているのですが、やっぱり持ち主がいざとなったら手放せないところがあります。バンクの登録も大事ですが、使いみちの意識付けをして、これはまちづくりのために役に立つといったセミナーなどをもう少し実施してはいかがでしょうか。なぜ登録してくれないのかではなく、住民の方におばあさんたちがいなくなったらこういうまちづくりのために使ってくださいということを意識させる働きかけが大事だと思います。</p>

委員	<p>2番目の観光客が少ないというところですが、ピンポイントに行くのではなくて、ユリ園が天候でだめであってもおいしいものが食べられるとか、別の体験ができるとか、そういうコースをいくつか提案していくこと、観光に特化していただくだけではなく地域の良さを知ってもらうという提案に変えていくことも大事だと思います。</p> <p>3番目の「森林から創まる地域創生」ですが、森林セラピーの講座に参加されていた方に聞いたのですが、市内の参加者よりも市外からの参加者の方が多かったそうです。やはり市内に住んでいる中高生など学生を対象にセミナーをやって宍粟のいいところを学んでもらい、一度進学で外へ出て行っても、ある程度年をとったら森林セラピーの資格を持っているから何か地域のためにできる、そういう人づくりに変えていくのも地域創生の形だと思います。ただ結婚して子どもを他の地域でつくるのではなくて、どこかで仕事してもいいからある程度年齢を重ね帰ってきてまたそういうことができるように、学校の時にそういう研修を受けてセラピーの資格を取得して市外へ出て行ってまた戻ってくる、或いは、よその地域でもそういうことができる人材を育てるようなカリキュラムを組んでやっていってはどうかと思います。</p> <p>地域が経済の循環をどう図るかという点が、まず一番大きな課題だと思います。観光客を外から呼ぶのはその次で、後からついてくると思うのですが、まず地域住民が自分のまちのことを知って、自分のまちの中でどう経済を循環させていくかということが非常に大事なことだと思います。それ自体が自立可能な地域づくりの第一歩ではないかと思っています。例えば巻きずし一つ作るにしても、地域でとれたお米を地域で採れたしいたけと巻いて、地域の人が地域の住民のために提供するというように、まずは内生的なところから始めていったら良いのではないかと感じています。</p> <p>その意味では住民への情報公開が非常に大事だと感じておりまして、宍粟市のHPも非常に弱いです。例えばこういう審議会の記録公開や空き家バンクの登録などが宍粟市のHPからリアルタイムにわかるかと言われると、そうでもない。どう情報公開をしていくかというのは非常に大きなポイントではないかと思っています。それによって地域住民が宍粟市のこういう現状についてとらえてもらえる機会を持てるのではないのでしょうか。あまり皆さんインターネットを見ないようにおっしゃいますが、大概皆さん見えています。お年を召した方は見ないと言われるが今の時代は見ておりますので、そういったところからまずは情報公開をどうやっていくかというところを取り組んでほしいと思います。</p> <p>空き家バンクのことですが、どこの地域でも問題になっているのが何をもって空き家としてとらえるかです。例えば家財道具をおいていて誰も住んでいない家を空き家とするのか、実は倒れそうになっていて地域の人たちが非常に危</p>
----	--

副委員長	<p>険を感じているとか、安心安全を保てないところを空き家ととらえるのか、それによって行政の対応も変わってくると思います。こういうところで地域住民との話し合い、地権者・地主さんとの話し合いがとても重要になってきますので、まずは住民一人ひとりと話をすることが大切と感じています。そのためには大分、職員の方も地域に入り込まないといけなくなるので、それぞれ地域おこし協力隊の方々の力を借りるなど、よそ者の力を借りることも必要であると感じています。</p> <p>人間の心理的な部分を申しますと、空き家にしている人、都会に出ている人は実は後ろめたいんですよ。ふるさとを捨てて年に2回か3回か仏さんに参る。そこに後ろめたさがあって、プラス家がある。家を人に売ったりすれば村を棄てたことになるので、まだ売ったり貸したりすることはできない。そういうのが根底にあるということを承知していただきたい。それをどう崩していくのが先決になります。経済的な問題もさることながら、心の部分をどう解きほぐしていくかというところを皆で知恵を絞っていきたいです。</p> <p>また、特産物のところで言いそびれましたが、皆が自分で作ってできるだけ経済を回していく観点から巻きずしの話がされましたが、お酒にしてもそうです。宍粟で作ったお米でお酒を造るととても良い。さまざまなものが少し気をつけてみたらわかってくると思います。宍粟森林王国と宍粟市観光協会が合併し、社団法人宍粟森林王国観光協会が発足しました。観光のこともさることながら、特産物のことまで真剣に考えていこうと動いています。</p>
委員	<p>宍粟市産物販売促進事業ということで、市内外の直売所において宍粟市の特産物として消費者が何を求めているか、おいしいことはもちろん、安心を求めていると思います。団体でフィルターをかけてみてはどうかと案が出ています。単に宍粟市ブランドのシールを貼るのではなくて、厳選・吟味し、この商品ができたというものです。2月に香美町の道の駅へ行きました。そこでは商品のネーミング、ラベルにこだわりを持っています。基準をクリアしたものでないと、その認証商品にはなりません。宍粟市の中で特に女性を中心に様々なものを作っていこうという動きが見られます。お墨付きをいただいたり、どこでも売ったりということができていない。作っても自己満足に過ぎない特産物が多い。そこで新たにできた組織の中でフィルターをかけて、市認証の商品として市外どこでも堂々と販売できる仕組みを作っていきたい。そこでは地元の者だけではなく、消費者代表やそういったことに慣れた人の目でフィルターをかけていきます。われわれだけでは傷のなめあいになってしまいますので、厳しい目で見られる視点が必要となります。一次産業を六次化していく。大きい小さいではなく、一人ひとりからそういうことができるような仕組みを作ら</p>

	<p>なくてはならない。</p>
委員	<p>今回こういう事業をたくさんされていますが、私はこういう委員会の一員なので一生懸命見ているのですが、見ていない人は何をやっているのかさっぱりわかりませんと思います。広報は確かに読むけれど、広報を読んだくらいではわからない。あえてインターネットで自分から難しいところを探しに行くのも難しい。地元企業を大いに活用してもらって、食堂に貼るとか休憩所に開示してもらおうなどすると、かなり間口が広がります。仕事をしていると待機中の休み時間とか、情報源の集中という意味では大きいと思います。もっと細かく20代や若い方に情報として回るのではないですか。</p>
委員	<p>空き家バンクの件で、家財が残っていると、大幅な改修が必要になるということですが、登録するには家財を処分しなくてはならないような決まりになっているのですか。</p>
事務局	<p>そういうことはありません。</p>
委員	<p>持ち主の方が家財が残っているから出さないということですか。私も個人的に空き家を持っていますが、人の家財を見るのも楽しい。人によっては家財付きの方が好きな人もいます。家財が残っているというのはアピールポイントにもなります。そういう視点をもって見てはどうでしょうか。</p> <p>大幅な改修のことですが、私は日曜大工で古民家をしています。実際にたつの市の建設業組合で技術を学んで自分でコツコツとやっています。取材先でもそうしてコツコツ修理している人はいます。どうしてもここまでは出来ないから一部は大工に任せる人もいます。例えばそういう技術者を養成している関係機関と連携し、例えばたつの市の建設業組合の学校や姫路のものづくり大学など、そういうところの学生に教材として修理してもらうように提携すれば、安価な費用で住めるようになるのではないのでしょうか。教材や趣味として大規模な改修というところはクリアできるのではないですか。</p>
委員	<p>県の紹介になりますが、修理ということでは短期滞在の田舎暮らしの体験をすることを前提に市町が改修をする場合、県民局から二分の一、上限150万円の補助があり、昨年度は4件すべてが宍粟市でした。宍粟市は工夫されています。空き家バンクに登録された方で片づけに困っている場合は、二分の一以内で、上限10万円の補助が出ます。小さいですが、そういう補助はあります。</p>
委員	<p>空き家バンクで前々から思っていたのですが、東河内の別荘地で困っている人</p>

事務局	<p>が多い。一度リストアップしてみてもはどうでしょうか。旅行会社の人に言われましたが、東河内の棚田は見る人によっては宝です。開墾してライトアップしたり様々なことをしてみてもどうか。泊るところがないが、空き家（別荘）があるのではないかとわれたことがあります。古民家のみならず生活ができる家は多い。ニーズに合わせて一つの候補として検討してみてもほしい。</p> <p>いくらかは登録されていますが、もう少し実態を明らかにした方がよいと思います。</p>
委員	<p>行政があまりにも縦割りすぎる。行政単独の事業ならば良いが、今や総合戦略の実施については行政と市民が一体になってするイベントがあります。そういうことに関しても縦割りで、他の部局がしているから参加しないという意識では総合戦略は上手くいかないと思います。行政側の意識を変えていただきたい。</p>
委員	<p>数字の達成に関しては職業柄気になりますが、5年間でこの数字を勢いで立てたのかもしれないが、立てたからには達成しなくてはなりません。平成27年から実施された政策もあろうとは思いますが、5年間でまとめられている施策でどういう事業で何をやっているのか、具体的にわれわれに示していただきたい。それを議論していかないと、まとまった議論ができないのではないですか。議論の集約がしづらいのではないかと思います。9月にある中間管理までに出していただければ、議論しやすくなると思います。</p>
委員長	<p>平成27年度の事業ですが、従来のものも新たなものもあるでしょうが、従来のものも従来通りのやり方では成果が上がらない。新たな試みが必要ではないですか。先ほどの婚活では民間に任せて新たな担い手にやってもらう、そうすれば新たなアイデアが出てくるのではないですか。そういう中で新たな問題や課題が出てきた時にどうするのか、新たな議論ができます。そのところが見えずに、数値がどんな意味を持っているのか、わかるはずがありません。増えた時にはなぜ増えたのか。先ほどの婚活でもそうですが、よくみると女性は市外が多かった。小さなことですが従来の壁を破った。従来と違うやり方をしたところを評価し、違うところで同じ発想ができないか、そういう議論ができるようにしなければならない。</p> <p>そうするためには計画の時点で作り込みが必要になります。実施する時に考えるのでは間に合いません。去年はスケジュールに追われたという実感を持っています。国の期限をクリアしなければ始まらなかった。いろんなことを先送りにして宿題として持ち越しながらスタートしました。そういう意味ではこの</p>

	<p>過程が表では並んでいますが、どのように関係しているか。さらに言えば、これ以外の事業も宍粟市は実施しているのですよね。ここにはこの戦略に関わったものだけをあげているが、他の事業に関係しているのも当然あるでしょう。KPI で示される成果というのは、他の事業にも依存しているのではないですか。そこまで考えないといけない。上手くいかなかったのは、この事業だけが悪いのではなく、ここに出ていない所に問題があるのかもしれないし、逆に他の所が上手くいって、こちらに成果があるのかもしれない。縦割りのなものが従来からありますが、これを本気で取り組むのであれば、そういう課題をここで真剣に取り組んではどうですか。</p> <p>そのことが新しいやり方とか切り口とかということです。そうしないと市民から見えにくい。アンケートを取って地域創生戦略の認知度を上げることが目的ではありません。事業に参加してほしい。なぜならば役所の中だけでは出来ることが限られていて、大きなうねりにしようと思えば役所の外の力を借りなくてはならないし、そちらが主体になって引っ張ってくれるのであれば、それでよい。そもそも行政主導で活性化しているところは皆無です。先ほど言われた人づくりを中学生や高校生の時から何か考えたらどうかというのも一長一短にいかないわけですから、そういうところから何か取り組みがないかということです。皆さんがそれぞれのところで言われたことを組み合わせれば、肉付けができるのではないかと思います。</p> <p>資料1を基に自分なりに考え感じたことがありました。副委員長が言われたフィルターをかけると、六次産業化で、人気商品がだいぶ出てきたのですね。皆が見てくれる、皆が応援してくれる、皆で名前をつけて売りだしたら今よりももっと売れるということ。こういうことはとてもいいことだと思います。ただ誰がどのように認定するかが重要です。六次化も宍粟でしていたもの、お酒もそう、加工する野菜も。私は赤飯をしますが、お米も小豆も自分で作らないとダメ。私には夢があるんですが、私は大型機械を使えないのですが、小麦粉の国産が少ないですよね。</p> <p>今、国産は増えてきています。</p> <p>契約はされていますか。</p> <p>国産を使えば安全性をアピールできると思います。農業の方の補助金としても小麦は高い。そういうところもあって契約しませんか、という感じで宍粟市の物を使っただけなら安全です。</p>
委員	
委員	
委員	
委員	

委員	<p>次に情報を公開することですが、宍粟市の材料を使えばどういった補助が得ますよという具体的な情報を皆が見えるように。広報だけでは深い内容がわかりません。情報が市民一人ひとりに行くようにする。市民が役所に不信感をもっています。役場に行けば何かしてくれる、意見を聞いてくれるという関係で市民と市が一体になり、お互いにやっていきたいと思えます。</p> <p>バスのことですが、小さいコミュニティバスが通っていますが、自治会の中のバスが走っている農道からさらに入ったところに家がたくさんあって、高齢者がたくさん住んでいます。コミュニティバスが通る道まで数分かかり、特に足が悪い人は結局利用できていません。運転手自身もこれでは誰も利用できないと言っています。また、バスの本数が少ないので一度街にでると帰りに2時間くらい待たなくてはなりません。出た後に帰りはどこにいればいいのかという声があります。せめて1時間か1時間半に1本くらいは必要です。</p> <p>家を覆っているような藪とか木の伐採について、去年自治会長から3軒くらい必要で、1軒だけだとできないと聞いたのですが、1軒だけでも鬱蒼としてしまっているところがあります。また、切った木が放置されています。50年、60年の大きな木があるが、腐っていくしかない。木を切ることへの補助はたくさんありますが、切られた木に関する補助がありません。林業者・持ち主に対する補助を見直されるべきではないですか。いろんなところに補助が出ていますが、農業や林業は目をかけてもらえません。日本全国、当事者が声をあげないから、そういうのが届かないのだと思います。何十年もおじいちゃんが世話をしてきた木も土になっています。立派な木で柱にも十分なる木です。そういうところも考えてほしいです。</p> <p>千種には泊るところがありません。千種東小学校を泊れるところとして貸していただくことになっていますが、もう一つ河内の小学校も安くて自分で食材を持って泊れるような施設にしたら、本当に多くの人利用できると思えます。千種に住みたいという人がいますが、出産費用には補助があるなど、誰もが情報を得られるように宣伝してもらいたいと思えます。</p> <p>また、誰もが大学、専門学校へ行けるように学業への無償支援を宍粟が全国に先駆けてしてやれば、絶対に住む人は増えると思えます。若い人の生活はぎりぎり子供を一人から増やすことができない状態です。世界の多くの国々に比べ、日本はとても遅れています。学費を無償にすることを宣伝すれば、大勢の人が喜んで来てくれると思えます。</p>
委員長	<p>個々の事業というよりは事業の進め方や体制・運営の仕方などを解決していかないと、単発で推し進めていくということでは事業も見えにくいし結果もついてこないのではないかと。平成28年度の事業が議題にあるのですが、個々の事業というよりは事業展開の仕方というのが問題になってくると思えます。今の</p>

	<p>議論は終わったことではなくて、これから進めていくときの前提となる議論であるというように位置付けてもらえればと思います。まず、資料3、4の今年度の事業計画の説明を聞かせてください。</p>
事務局	<p>宍粟市 28 年度地域創生に係る事業について (事務局より資料を基に説明)</p>
委員	<p>個別の事業の細かなところというよりは、どのように詰めていくか、或いは今までここに書いていない事業との関係とかを含めての方が大切だと思います。</p>
委員	<p>私の家の周りは山の急斜面で畑や田んぼにボコボコ穴があいたりしています。危険だからと市の職員が見に来てくれたのですが、たつの市の土木事務所の管理ということで、3カ月後に再度見に来られ、また回答が先延ばしになり、具体的に何も進んでいません。市民の声に対して順番をつけてもいいから何年度はここをやりましょうと、大きな災害が起きる前に目に見えるように着実にやってほしい。先延ばしにして土地が崩れないと何もできないというのはおかしいと思います。順番に今年度はここをやっていきましょうとはっきりすると、住民は今度の市役所の人はやってくれると思うのです。窓口へ行くと予算がないと言われるが、検討してみますとか、皆でとか、市長さんも含めてとか、そういうところにまで声が届くような姿勢に変えてほしいと思います。</p>
事務局	<p>市としては住民から要望があったとき、個人の方から直接あった場合は、自治会長さんだとか、そういうところで集約された意見ということでお伺いをして対応させていただきます。頭から予算がないからというようなことは申しておりません。まずそこにどういう原因があるのか、どういう事業とかぶっているのかということで、それに則って県の農林事務所や土木事務所などに進達し、対応させてもらっています。そういう中で色々な条件の中で比較した上で順番は付けています。客観的な目と法的な根拠付けをした上で公平に判断しておりますので、声がどうのとか、予算がどうのとか、そういった形では対応していません。きっちり県の方にもお伝えします。また国の方にもお願いしておりますが、その結果はまた市を通じてお伝えさせてもらっています。それが届いていないようでしたら、調べて対応させていただきます。</p>
委員	<p>私も自治会長に言ってくださいと言われて、自治会長さんから言ってもらいました。そこは何年にやりますよというように、結果を示すような方針がほしいです。</p>

事務局	<p>全体的な議論になりますので、後で個別にお伺いさせていただきます。</p>
委員	<p>資料1の2番の宍粟産物販売促進事業では、宍粟産の商品のシールを貼ってシールを集めて応募すれば当選するという取組があります。1月に10名当選するそうですが、今月は誰が何に当選しましたということを出していただけたら、当たっている人にも見えます。商品の発送をもって代えさせていただきますということでは、この事業に活気がないのです。荷物を運ぶ人が着服していてもわからないですし、当選したことを皆に明るいニュースとして知らせることによって、当選することに期待が持てるようになるので、それを発表していただきたいです。</p>
委員	<p>この間、某政党の勉強会で石破地方創生担当大臣が言われていたことを少し紹介させていただきます。彼曰く、これは静かな有事である、と。戦争とかテロとか、熊本の大地震とかは目に見えて有事ですので、皆懸命になって応援したり考えたりするのですけども、こういう静かに進行している有事はどうなのか。先ほどの人口統計にもありましたが、日本も2100年には5,000万人くらいになる、それが2300年になると1,000万人くらいになる。今の行政のやり方では達成出来ないでしょう。この有事は、失敗すれば日本の国が滅びるという覚悟でやらないといけないと仰っておられました。もう一つ、これは行政だけではどうしようもならない、国民一人ひとりにどう動いてもらうかが大きな課題だということも仰っておられたので、大きな視点がいるのかなと。私も同じ行政マンとして、この静かな有事というのは、彼は防衛が得意の分野なのでそういう表現を使ったのかなと思うのですが、一つそういう表現もあるのかなという紹介だけさせていただきました。</p>
委員長	<p>今までも補助金を出してきました。でも結果を見れば、成果が上がっていないのではないかと。また同じことになるのではないかと。ところが、一つ懸念です。補助金を活用するということが悪くはないのですが、補助金ばかりに頼っていると、そのお金はこの地域に回らず、どこかへ行ってしまふということになったら、何の効果もないということになってしまいます。補助金を使うということと頼るということの違い、補助金を使うことが目的ではなく、補助金を何の目的で使うかが重要で、今年度やろうとしていることについても、補助金の額ではなく、中身がどうかということも議論していかなくてはならないと思います。それは役所だけの問題ではなく、根の深い問題です。この問題意識をどこまで共有できるかです。問題意識を役所の外にどう浸透させていくのかという作戦が別にあるのではないかと思います。</p>

副委員長	<p>最近痛切に感じたことがあります。平成 27 年度にプレミアム商品券が全国で実施されました。この地域で 4 億 3,000 万分のプレミアム商品券を出し、そのうちの 20%がプレミアム部分です。この事業を行うにあたって皆さんに説明しましたが、行き届いていないと感じました。待っているだけではなく、それぞれの事業者がどのように活かして、それぞれの商店がどう品揃えを工夫し、皆さんに来ていただくチャンスとしてどう捉えるか。アンケート結果では、消費者には良好でしたが、事業者の 50%は「やっても一緒」でした。20%の人は「ものすごくよかった」、30%は「まあまあよかった」という結果でした。これはそれぞれの受ける側の質であると思います。やっても一緒と思う方が多い地域はやはりそうになっていくし、やってよかったと思われる地域にぜひなっていくなくてはならないと痛切に感じました。</p> <p>そういうことも含めながら、これからの地域創生の中で気になった部分がありましたので、資料 3 の「雇用の創出と就業支援」に 4 億 7,300 万円もついているのかと思って見ていました。中身を見ますと、そのうち 70%の 3 億円が産業振興資金融資利子補給事業で、新たな地域創生の事業としては少ない。私が冒頭に申しました通り、経済活動を活発化させていかないと本来の地域創生になりません。一人ひとりがそういう意識を持ってやっていくような地域にしていけないといけない。市のあり方として仕方がない部分があると思いますが、3 億円が今までの流れの中で、新たな事業がそれでも 1 億 3,000 万円あるのだと思いつつも、ぜひ一人ひとりがされることに対する支援ができるようお願いしたい。そして先ほども言いましたように、待っているだけのところに補助するような事業はやめて、真剣に汗と知恵を出す者が報われるような、そういう地域にしていきたいと思います。</p>
委員長	<p>時間が少し過ぎていますが、何か言い残したことはありますか。</p>
委員	<p>私たちも NPO をやっていますが、それに関しても行政と共に手を組んで何か地域のために出来るような動きを活発化するようなふるさとにしたいと、皆でやっていけるような体制を作っていくことが一番良いのかなと思っています。こういう場を持っていただいて話をしながら、企業も私たち市民も行政もバラバラではなく一緒にやっていかないと生き残っていけないと思うので、その辺りを一緒にやっていきたいと思っています。</p>
委員長	<p>プラットフォーム作りを一方でやることは総合計画にも出ていますので、そこは役所をあげて共通の課題で、それが他のところにも波及してくるかと思っておりますので、その辺りを 9 月までに何らかの見える形にしていきたいと思います。</p>

委員	<p>いろいろ議論のあった中で、やはり若い人たちの中に地元や田舎を好きな子たちをたくさん作るやり方をいろいろ検討していきたいと思います。企業の件もそうだが、魅力がないとなかなかわからないので、見える化できるようにいろいろとやっていただきたい。この会議や市の問題ではありませんが、国会議員の定数格差が2倍以上あるのは違憲という判決が出まして、都会に議員を増やしましょうという流れになってはいますが、本当にそう思っているのか、田舎の方が本当に恵まれているのか。都会の議員を減らして田舎の議員を増やしてもいいのではないかと、他の国の方式が本当に正しいと誰が決めたのかということ、田舎の人はもっと声を出していくべきではないかと思います。本当に金のばらまきだと言われるのであれば、本当にばらまかないといけないと思う。税制も変えていかないといけない。都会の人の所得税をあげて田舎の所得税を下げて人口が移ってくるように仕組みを変えていかないと。人数が減るから議員を減らすのではなく、人口を増やして正しく持っていくことが国本来のやり方ではないかと思います。今あることが正しいのではなく本質的にそれでいいのかと、この国は良いのかと議論していくべきです。田舎に住む方が得なのだというような国を作っていくと、根っこが腐ると幹も枯れていくので、土を耕さない国が枯れていくよと、ちゃんと考えてもらいたいと思います。</p>
委員	<p>山の公益性のことで経済性のことを話しますが、林業がこうなっているので国外のものではなく国産材を使いましょうと啓蒙していく中で、環境の良い山をきちっと手入れしていけば、緑の波ができて災害の少ない地域づくりができます。もう一つは、地下にもぐった水がもう一度川を伝って海にそそぎ、様々な働きをしています。大きくわけて三つくらいの公益性をもっています。これについて都会の人がタダで使っているのはおかしくはないですか。都会の人は恩恵を被っていて、田舎のわれわれが生産をしています。生産者にフィードバックがあれば、それでまちづくりができます。そういう考えが必要なのではないですか。もっと声を大きくしていかなければならないのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>私のところは個人で農家をやっていますが、県知事が大規模化を進めようと言っていたが、個々の農家の切り捨てのように感じました。大きな農家は良いが、小さな農家では機械が高すぎて個人ではしんどい。100万～500万はする。集落に共同の機械が持てるように補助をいただけたら、農業にもっとお金をつぎ込んでもらえれば、一人ひとりも生きていけます。個々の農家を援助してほしい。同じものを作っても、集団の方が補助は高くなっていますが、そうではなく一人ひとりの農民を支援してもらいたい。畑も守っていかないと、景観も保てないし食べ物も作れない。若い人も農業が続くように力をいれてほしい。</p>

<p>委員長</p>	<p>個々の農業をつぶさないようにしてほしい。</p> <p>国政レベルのことはここでは難しい。しかし、それを言う一方で、足元で実績をあげていくことが説得力を持たせる上でも重要なのかと思います。そのためにこの1～2年で小さくてもいいから成功例を出すことが、それによって自信を持つという点でも必要になってくるのかと思います。そういう意味でも具体的に事業を進めていくことについては、それぞれの担当部局ともう一度問題意識の共有と議論を広げていただきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>4．その他</p> <p>次回戦略委員会は9月頃開催しますのでよろしくお願いします。</p>
<p>副委員長</p>	<p>5．開会</p> <p>2時間余り皆さんから貴重な意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。私も今日の議論をしながら思い出したことがあります。ずいぶん昔の話になりますが、国民が国に対して何を要望するかではなく、国民一人ひとりが国のために何ができるかということを考えよう、という名演説がありますけど、それを思い出しました。この地域の活性化というのは、ここに住む者が大きな目を開け、一人ひとりが自覚をしていくこと自体がいかに大事であるか、今日もつくづく皆さんの意見を聞きながら感じ入ったところでございます。この地域が一步でも二歩でも良くなり、そして、人口の減少に歯止めが利くようなそういう会議を目指して、任期はまだ1年以上ありますので頑張っていきたいと思います。皆さんにご協力のほどお願いいたしまして閉会のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。</p>